

平成 2 9 年第 2 回定例会（ 1 2 月議会）
建設部 提出資料（ 1 2 月 4 日）

建設委員会

【所管関係】

- | | | |
|---------|---------------------------------|-----------|
| ○ 建設政策課 | 秋田県建設産業担い手確保育成センターの
取組状況について | ・ ・ ・ ・ 1 |
| ○ 港湾空港課 | 秋田港長期構想について | ・ ・ ・ ・ 3 |

秋田県建設産業担い手確保育成センターの取組状況について

平成29年12月4日

建設政策課

1 担い手確保育成推進員の活動

担い手確保・育成を担当する専門の職員として「担い手確保育成推進員」を2名配置し、建設産業団体や教育・訓練機関等との連携を強化

(1) 高校連携に関する活動

- ・ 工業高校、普通高校、定時制課程など幅広く高校を訪問（延べ66回）
- ・ 建設産業の取組を紹介しながら各校の就職指導の実態等を把握

【重点取組事項】各校に配置されている就職支援員とのネットワークの構築

(2) 女性活躍推進に関する活動

- ・ 平鹿建設業協会女性部「SAKURA（さくら）」の活動をサポート
- ・ 建設企業を訪問して女性活躍に向けた取組状況等を把握し他社に紹介

【重点取組事項】平鹿地域以外の女性活躍企業とのネットワークの構築

2 建設人材の育成

(1) 土木建築系資格試験対策講座の開催

- ・ 県内の高校生等を対象とする「2級建築施工管理技士学科試験対策講座」を県内3会場で実施し47名が受講（9月～11月）
- ・ 「2級土木施工管理技士学科試験対策講座」も先日開講し、県内建設企業に就職が内定している普通高校の生徒等18名が受講中（12月～翌2月）

(2) 建設人材を育成する教習所に対する支援

ドローン等のICT人材を育成する民間教習所に対して補助金を支給（9月）

補助対象事業者	事業内容	H29目標 (H31目標)
(株)スリーアイバード (五城目町)	恋地スキー場跡地を整備し、ドローンの教習フィールドとして活用	20人育成(※) (80人育成)
東光鉄工(株) (大館市)	旧雪沢小学校を改修し、i-Constructionコースを開講	50人育成 (180人育成)

※ 旧馬場目小学校内に開設済の教習所を加えると、平成29年度で130名、平成31年度で300名を育成



(株)スリーアイバード・恋地スキー場跡地



東光鉄工(株)UAV事業部・旧雪沢小

3 女性活躍の推進

- ・ 女子高校生と女性技術者が一緒になって現場見学会やワークショップ等を行う「よこて建設女子会」を開催（9月）
- ・ 平鹿建設業協会に女性部「SAKURA」が設立され（10月）、県内外の高校生が集うイベントにブースを出展し（同月）、他県の女性活躍ネットワークとの意見交換会を実施（11月）
- ・ 女性限定のドローン体験交流セミナーを開催し（11月）、女性とICTを組み合わせた取組「ドローンこまち」の活動を開始

【 女性部「SAKURA」の活動状況 】

- 10月11日（水）、平鹿建設業協会会員企業の女性社員39名で設立
- 10月21日（土）・22日（日）に開催された「さんフェア秋田2017」にブース出展し、女子生徒や保護者、教員等に対して建設産業の魅力を直接PR（ブース来場者500名超）
- 11月13日（月）、岩手県建設業女性マネジングスタッフ協議会（岩手県建設業協会）との意見交換会を岩手県盛岡市で開催し、SAKURA会員のほか、仙北建設業協会や雄勝建設業協会の会員企業で活躍している女性社員も参加



【 「ドローンこまち」の活動状況 】

- 11月12日（日）・13日（月）、「BABAME BASE」（五城目町地域活性化支援センター）を会場に女性限定のドローン体験交流セミナーを開催し、県内各地から、女子生徒・学生、測量・建設会社女性社員等23名が参加



4 高校や大学等に対する積極的な広報

- ・ 建設産業団体の取組を支援する「建設業担い手確保育成支援事業」を活用して、県土整備コンサルタンツ協会では工業高校を対象とする3次元測量の出前講座を、雄勝建設業協会では普通高校を対象とする出前講座をそれぞれ実施（6月～）
- ・ 他県の大学や専門学校を訪問して、県内就職に結びつく学生インターンシップの実施可能性を調査（7月～）

【訪問先】東北工業大学、仙台工科専門学校、東北電子専門学校（以上宮城県）
中央工学校（東京都）

【実績】学生1名のインターンシップを斡旋（平鹿建設業協会会員企業で受入れ）

秋田港長期構想について

平成29年12月4日
港 湾 空 港 課

1 概 要

- ・秋田港は、平成18年に改訂した港湾計画（目標年次：概ね平成32年）に基づき整備を進めているが、既に10年以上が経過
- ・この間、石炭火力発電所の進出計画や港湾内洋上風力発電、外航クルーズ船等の寄港回数の増加など、港湾の利用環境が大きく変化
- ・このため、平成27年度に学識経験者、地域住民、港湾利用者等からなる「秋田港長期構想委員会」を設置し、秋田港の20～30年先を見据えた長期構想を検討
- ・産業物流、交流拠点、港湾環境に関する3つの勉強会を各5回開催するとともに、委員会を計3回開催して取りまとめ、新たな長期構想を今年11月に策定

2 秋田港長期構想における主な施策と取組

産業物流・交流拠点・港湾環境等の視点より、秋田港の中・長期的施策を抽出、施策に基づく具体的な取組を提示

【戦略的取組】

- ①流通・加工・製造機能の高度集積による秋田港ロジスティクスターミナル（梱包・混載を兼ね備えた高機能・高効率施設）の形成
- ②再生可能エネルギー及び素材型産業を支える大型バルクターミナルの形成
- ③多様な貨物に対応可能な海上物流拠点の形成
- ④クルーズターミナル群の形成とシンボル景観の構築
- ⑤着地型観光商品の開発とクルーズ文化醸成
- ⑥海釣り施設としての防波堤開放による秋田海釣りブランドの確立
- ⑦レクリエーション機能向上を目指したウォーターフロントの再生
- ⑧県民・労働者・来訪者の安全を確保する防災拠点の形成

3 スケジュール

今後は、新たな長期構想に基づき、平成30年度内に港湾計画を改訂する予定

項 目	平成27年度				平成28年度				平成29年度				平成30年度			
秋田港 長期構想																
秋田港 港湾計画改訂																